

はじめに

もしも戦国時代にタイムスリップできるなら、どんな歴史的瞬間に出会いたいだろうか？

織田信長の鉄砲隊が、武田軍を撃破した「長篠の戦い」^{ながしの}だろうか。信長が明智光秀に討たれ、非業の死を遂げた「本能寺の変」だろうか。豊臣秀吉の没後、東軍と西軍が激突した天下分け目の「関ヶ原の戦い」や、戦国史上最大規模の合戦となった「大坂の陣」も外せない。

戦国時代の名場面は、歴史小説や大河ドラマで繰り返し描かれてきた。命がけで戦場を駆け抜けた戦国武将たちは、勇猛果敢なヒーローとして人気を集めてきたが、その権力闘争はあくまで日本史の出来事として語られてきた。ところが今、戦国史の常識が大きく塗り替わろうとしている。近年、世界各地で戦国日本に関する新たな発見が相次ぎ、世界史との知られざるつながりが明らかになってきた。

戦国史を刷新する原動力となるのが、グローバルヒストリーという新潮流だ。地球規模のスケールで世界の動きを俯瞰^{ふかん}することで、これまでにない新しい歴史の見方を示してくれる。

では戦国日本は世界史にどんなインパクトを与えたのか。グローバル経済史の第一人者で、ヨーロッパ中心の歴史観を乗り越えようとしてきたシカゴ大学のケネス・ポメラント教授は、NHKスペシャル「戦国」取材班のインタビュアーに、示唆に富んだ答えを返してくれた。

「戦国時代の日本は、実際に多くの点において、世界史の最前線だったので」

実は、戦国日本は、世界の覇権争いと深く関わり、アジアやヨーロッパのパワーバランスに重大な影響を与え、歴史の大変動を起こしていたのだ。

一体、どんな大変動だったのか？ 謎を解き明かす手掛かりが、ヨーロッパの博物館や文書館に秘蔵されていた戦国日本に関する重要文書の数々だ。私たち取材班は、七か国の歴史アーカイブで調査を行い、門外不出の機密文書を含む膨大な史料を入手した。

日本の戦国時代に、ヨーロッパは大航海時代に突入していた。ポルトガルやスペインの船乗りや商人は、新たな領土や富を求めて、大海原へと漕ぎ出していった。同時に、世界各地に急速に広まったのが、キリスト教である。その波は、アメリカ大陸、アフリカ、アジアに押し寄せ、ついに日本に到達する。

この時、戦国武將に接近したキリスト教の宣教師の一部は、壮大な世界征服計画を胸に秘めていたことが、機密文書から浮かび上がってきた。当時の戦国日本では、軍事技術が急速に進

化し、世界に類を見ない軍事国家となっていた。全世界をキリスト教国家にするという使命を負っていた宣教師は、日本の軍事力を利用して、世界で最も豊かな国だった中国を征服するとさえ可能だと考えていたというのだ。

計画のカギを握るのは、天下統一に邁進する織田信長だ。信長と宣教師は、それぞれの思惑を抱き、激しい駆け引きを繰り返す。本能寺の変で信長が没した後、後継者となり、天下統一を果たした秀吉は、実際に中国征服を次なる目標に掲げ、戦国日本の軍事力は、アジアに未曾有の戦乱を引き起こしていく。やがて、秀吉の野心は、宣教師の思惑を超えて拡大し、その背後にいたヨーロッパの超大国スペインをも射程に収めた。歴史家は、「世界戦争」の危機が現実のものになろうとしていたと指摘する。

戦国史に新しい光をあてるため、取材は、世界各国で手掛かりを探索することから始まった。調査対象は、大航海時代を切り拓いたポルトガルとスペイン、両国が拠点を築いた中東やインドの旧植民地、後発ながら世界の覇権を奪い取ろうとしたオランダとイギリス、日本人の商人や傭兵が進出した東南アジアのタイ、ヴェトナム、インドネシア、そして宣教師を各地に派遣したイエズス会の本部があるイタリアや、教皇が君臨するヴァチカン、貿易ルート上のオマーンなど、一〇か国を超える。

本書では、ヨーロッパ各国の歴史アーカイブで発掘された機密文書を紹介しながら、戦国日本と世界が織りなす激動の時代をつぶさに描いていく。国内の出来事と思われてきた戦国史のターニングポイントを、グローバルヒストリーの視点で捉え直すことで、歴史の実相が見えてくる。

戦国日本 vs. ヨーロッパの熾烈な攻防は、一体どのように世界を変えていったのか。信長・秀吉・家康といったリーダーたちは、いかなる対外戦略を練り上げ、危機を乗り越えようとしたのか。そこにはグローバル化が進展し、国際対立や武力紛争で揺れ動く現代世界を生き抜く手掛かりがあるはずだ。

目次

第一章 宣教師と信長の出会い

信長と四ツ目のカブラル／神の代理人、教皇の野望／

イエズス会の極秘情報活動／織田信長の登場／將軍暗殺事件の衝撃／
信長とフロイスの出会い／怪僧日乗との論戦／反信長勢力との死闘／
比叡山焼き討ち

第二章 長篠合戦のグローバル戦略

最強の敵、武田家との死闘／決戦・長篠の戦い／

勝敗を分けた鉄砲玉の科学分析／沈没船から見えてくる大航海時代／
宣教師と南蛮貿易／仏教勢力との最終決戦／切り札は高山右近

第三章 戦国日本の軍事革命とアジア征服計画

戦国日本の軍事革命／宣教師を驚かせた鉄甲船／

「太陽の沈まぬ国」スペインのフェリペ二世／安土城を訪ねたヴァリニャーノ／

ヴァリニャーノの中国征服計画／信長は宣教師たちの野望を知っていた／

教会領長崎の要塞化計画／宣教師が目撃した本能寺の変

第四章 秀吉の天下統一とイエズス会の野望

本能寺の変の後と宣教師／キリシタン大名の台頭／

ヨーロッパを熱狂させた天正遣欧使節／コエリヨに明かした中国征服計画／

コエリヨの失策／アルマダの海戦、スペインの敗北／

コエリヨが企てた秀吉との戦争計画

第五章 秀吉 vs. フェリペ二世

ヴァリニャーノと秀吉の会見／同時多発する世界戦争の危機／マニラの陰謀／

フィリピン攻略の黒幕・原田喜右衛門／緊迫の外交交渉／

サン・フェリペ号事件の衝撃／戦国日本 vs. スペイン

第六章 関ヶ原の戦いとオランダの企み

新たな戦いの序曲／リーフデ号の苦難の旅／アダムスと家康の会談／
「関ヶ原の戦い」前夜の攻防／西洋の武器が勝敗を分けた!?

179

第七章 ジャパン・シルバー争奪戦

オランダ東インド会社の誕生／世界史を変えた銀／
銀の争奪戦——スペインvs.オランダ／天下取りを支えた巨大銀山／
平戸オランダ商館長スペックスの野望／ビペロの逆襲

197

第八章 徳川・オランダvs.豊臣・スペイン

家康の対豊臣包囲網／「大坂の陣」決戦前夜、ヨーロッパ列強の暗闘／
豊臣キリシタン連合の結成／勝敗を分けたオランダとイギリスの大砲／
実験が明かす大砲の威力／戦国の世に終止符を打った大坂の陣

221

第九章 世界史を動かした戦国日本

239

大坂の陣後のオランダとスペイン／失業したサムライの転職先／
覇権争いの切り札はサムライ傭兵／オランダ東インド会社総督クーンの活躍／
アンボイナ事件と日本人傭兵／三十年戦争とハプスブルク家の落日／
日本の銅が世界史を変えた

おわりに

257

引用・参考文献

260

地図作成・図版レイアウト／MOTHER